

令和 5 年 6 月 5 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19K01033

研究課題名（和文）西北ユーラシアと中央アジアのイスラーム聖者と聖者廟の社会史的研究

研究課題名（英文）A Social History of Islamic Saints and Shrines in Northwestern Eurasia and Central Asia

研究代表者

今松 泰（IMAMATSU, Yasushi）

京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・特任准教授

研究者番号：80598938

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、中央ユーラシア西北部のイスラーム聖者とその墓廟をめぐる信仰実践の様相を明らかにすることをめざし、ロシア連邦ウファ市近郊のフセイン・ベク廟（アク・ズィラト墓地）の事例研究、また中央アジアの類似例との比較研究を行うものである。本研究の最大の成果は、従来研究者に存在を知られてきたにもかかわらず、ロシアのごく限られた研究者によって基礎的な研究が行われるのみであったフセイン・ベク廟（アク・ズィラト墓地）の墓石や墓碑銘をデジタル写真に記録し、画像データベースにまとめ、ウェブで公開したことである。これにより、国や地域を問わず、専門家がオリジナルの銘文の鮮明な画像にアクセスできるようになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中央アジア研究には、スーフィズムや聖者崇敬・聖地参詣について多くの蓄積がある。しかし、ロシアのヴォルガ・ウラル地域のムスリム集住地域については、中央アジアのムスリム社会とのつながりや、聖者崇敬・聖地参詣とみなされる宗教実践が指摘されながらも、研究が進んでいない状況がある。本研究は、ウラル南麓のイスラーム聖者崇敬・聖地参詣の代表的事例であるフセイン・ベク廟（アク・ズィラト墓地）の基礎資料と情報を、中央ユーラシアを対象とする歴史学、人類学、考古学に提供する。その墓石・墓碑銘の画像データベースをウェブで公開し、研究者だけでなく、観光地として整備の進む聖地の記録としても、広く社会に提供する。

研究成果の概要（英文）：This study aims to describe some aspects of the religious practices concerning Islamic saints and their mausoleums or tombs in Northwestern Eurasia by conducting a case study of the Husein-Bek Mausoleum (the "Ak-zirat" cemetery) near the city of Ufa, the Russian Federation and comparing it with similar examples in Central Asia. The headstones and epitaphs of the Ak-zirat cemetery have been known to researchers, but have been studied fundamentally by only a few Russian experts. The most important achievement of this study is that those headstones and epitaphs were digitally photographed and an image database was created. The image database of the pictures of the headstones and the epitaphs is now available on the Web, and this allows experts from any country or region to access clear images of the original inscriptions.

研究分野：中東宗教史・文化史

キーワード：聖地参詣 聖者崇敬 墓碑銘 イスラーム スーフィズム ロシア 中央アジア デジタルアーカイブ

1. 研究開始当初の背景

中央アジアの民衆のイスラーム信仰については、そこにおけるスーフィズム(イスラーム神秘主義)の重要性が強調される。9世紀のイラク地方に最初のスーフィー(神秘家)が現れ、11世紀には高名なスーフィーを師匠とする弟子の集団が登場するが、同じ時期に中央アジアでもヤサヴィー教団、のちナクシュバンディー教団、クブラヴィー教団などのスーフィー教団が形成された。13世紀に中央ユーラシアで成立したモンゴル後裔諸国家の君主のイスラーム改宗譚は、そうしたスーフィー教団の指導者や、その道統に連なるとされるスーフィーの活動と結びつけられていったが、それらの個別事例は、中央アジアのみならず、ロシアのヴォルガ・ウラル地域(ヴォルガ中・下流域とウラル南麓)を含む中央ユーラシア西北部についても研究されている[DeWeese 1994; 矢島 2000]。

中央アジアについては、スーフィー等のイスラーム聖者やその墓廟をめぐる信仰の研究も相当に進展している。特にわが国には、比較的無名なものも含め、様々な聖者や聖者廟について遺された、聖者伝等の文献研究の蓄積がある[濱田 1999]。現存する聖者廟の調査を、その近隣住民等への聞き取り調査による口承の収集とあわせて行なった国際共同研究も、わが国の研究者を中心とする[Shinmen, Sawada and Waite (eds.) 2013]。つまり、わが国の中央アジア史研究の特質の1つはまちがいないく、14世紀後半以降のスーフィズムや、聖者とその墓廟をめぐる信仰の展開を解明してきたことである。特に、19世紀以降という比較的新しい時代に作られたとみられる聖者伝等の文献や、現存する聖者廟の研究の進展は顕著である。しかし、ヴォルガ・ウラル地域については、そうした比較的新しい時代の聖者や聖者廟の研究が行われていない。

ヴォルガ・ウラル地域のウラマーやスーフィーを研究した M・ケムパーは、特にウラル南麓のイスラーム文化の特徴として、ナクシュバンディー教団の道統に連なるスーフィーの影響力を挙げる[Kemper 1998]。ヴォルガ・ウラル地域のムスリムに最も普及した歴史書である『ブルガール史』には、スーフィー等の聖者の墓を聖地として列挙し、解説する章がある[Frank 1998]。ようするに、少なくとも 18~19 世紀の、特にウラル南麓には、スーフィー等の聖者を崇敬し、聖者廟に参詣する信仰形態が根付いていたと考えられる。ただ、そのことはソ連解体後 25 年以上経った現在もまだ、中央アジアのように専門的かつ組織的には、研究されていないのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、ロシアのヴォルガ・ウラル地域と中央アジアを事例として、イスラーム聖者とその墓廟をめぐる信仰実践の様相を解明することである。まず、ヴォルガ・ウラル地域のイスラーム聖者崇敬について、ロシア連邦バシコルトスタン共和国ウファ市近郊のフセイン・ベク廟を事例に、書物等の紙媒体で遺された文献と、墓廟およびその周辺の墓石の銘文をあわせて収集・分析する。次に、それを中央アジアのイスラーム聖者に関する同種の史資料と対照し、比較分析する。この作業により、ヴォルガ・ウラル地域の事例を中央アジアのスーフィズム研究やイスラーム聖者崇敬・聖地参詣研究に繋げ、中央ユーラシア全体の民衆に普及するイスラーム信仰の実態に接近することを試みる。

3. 研究の方法

[研究課題]

- (1) 研究課題 A : ヴォルガ・ウラル地域のイスラーム聖者とその墓廟をめぐる信仰実践の様相を、ウファ市近郊のフセイン・ベク廟を事例とし、書物等の紙媒体で遺された文献と、墓廟およびその周辺の墓石群の銘文をあわせて収集・分析して、解明する。
- (2) 研究課題 B : 研究課題 A で明らかになる、ヴォルガ・ウラル地域の事例を、中央アジアの同種の事例と対照し、比較分析する。

[研究組織]

- ・ 研究代表者 : 今松泰...トルコ・テュルク系ムスリム社会のスーフィズム、および聖者崇敬・聖地参詣の専門家として、研究課題 A・B の作業すべてを研究分担者とともに行い、また研究全体を取りまとめる。
- ・ 研究分担者 : 矢島洋一...ヴォルガ・ウラル地域と中央アジアのスーフィー教団、碑文研究の専門家として、研究課題 A の墓碑銘の読解・分析と、研究課題 B の比較分析を行う。
- ・ 研究分担者 : 磯貝真澄...ヴォルガ・ウラル地域のテュルク系ムスリム研究の専門家として、研究課題 A の、書物等の紙媒体文献の収集・読解・分析と、墓碑銘の収集を担当する。
- ・ 海外研究協力者...マルスィル・N・ファルフシャートフ、ラミール・M・ブルガーコフ(ロシア科学アカデミー・ウファ連邦研究センター・歴史言語文学研究所)。
* 海外研究協力者については、研究開始後、ラシト・Iu・アックベコフ(ロシア科学アカデミー・ウファ連邦研究センター・歴史言語文学研究所)とエヴゲーニイ・V・ルスラノフ(ロシア連邦バシコルトスタン共和国文化遺産保護局・考古遺産部長)の協力も得た。また、墓碑銘のデジタル写真撮影による収集には、学術写真家タチヤナ・K・スリナが参加した。

[文献収集の手法]

- ・ フセイン・ベク廟(アク・ズィラト墓地)の墓石群の墓碑銘...研究代表者・分担者、海外研究協力者、学術写真家による調査隊を組み、デジタル写真撮影を含む、墓石群と墓碑銘の記録を行なう。
- ・ 書物等の紙媒体の文献...研究代表者・分担者、海外研究協力者が各自の専門を生かし、次の各種図書館、公文書館で収集する。ロシア科学アカデミー・ウファ連邦研究センター図書館・文書館、ロシア連邦バシコルトスタン共和国国民文書館、バシコルトスタン共和国国民図書館、ロシア連邦タタルスタン共和国国立文書館、タタルスタン共和国国民図書館、ウズベキスタン科学アカデミー・ピールーニー名称東洋学研究所図書館、ほか。
* 2020 年春以降の新型コロナウイルス感染拡大と、2022 年春以降のロシアによるウクライナ侵略戦争にともなう困難のため、研究期間を延長し、トルコ共和国のスレイマニエ図書館、イスラーム研究センター(ISAM)図書館、首相府オスマン文書館でも作業をした。

4 . 研究成果

- (1) ウラル南麓のフセイン・ベク廟(アク・ズィラト墓地)の墓石群と墓碑銘のデジタル写真記録、および画像データベース作成とデジタルアーカイブにおける公開
 - ・ 調査...2019 年 9 月 8 日、ロシア連邦バシコルトスタン共和国チシミ地区所在のフセイン・ベク廟(アク・ズィラト墓地)にて、今松、磯貝、ファルフシャートフ、スリナの 4 名で行った。磯貝が墓石の位置を地理情報も含めて記録し、スリナがデジタル写真撮影を行なった。なお、事前調査は、前日の 9 月 7 日、今松、磯貝、ファルフシャートフ、ブルガーコフ、ルスラノフ、スリナが、チシミ地区の行政スタッフとともに行なった。
 - ・ デジタル写真の整理と画像データベース化...磯貝とファルフシャートフが行なった。
 - ・ デジタルアーカイブにおける公開...研究開始当初の計画では、カラー写真を収録した図書(紙媒体と PDF)を編集する予定だったが、デジタルアーカイブに収めてウェブ公開する機会が得られたため、磯貝が担当して行なった。ISOGAI, Masumi, FARKHSHATOV, Marsil N, SURINA, Tat'iana K. eds. "An Islamic Sacred Site and Epitaphs in the Southern Urals," *The Digital Archive of Northeast Asian Studies*. <<https://archives.cneas.tohoku.ac.jp/index.php/en/collection/musepitaph>>
 - ・ 今後に向けて
複数の画像データベースを横断的に検索できるデジタルアーカイブで公開するかわりに、メタデータをごく簡単なものに限定する結果となった。メタデータの著作権放棄が見込まれるため適切な判断のほずである。メタデータとしての公開も可能な諸情報(たとえば、墓碑銘中の人名など)は、別途、学術論文に収録し、公開する。
記録した地理情報の精度が高くないという問題が残った。ロシアによるウクライナ侵略戦争が長期化する様相のため、地理情報を再度記録することは容易でないが、海外研究協力者とともに、課題として認識する。また、今後同種の作業を行なう場合は、地理情報を測定する機器の性能の問題に十分注意を払う。
- (2) フセイン・ベク廟(アク・ズィラト墓地)の墓石群の墓碑銘の研究
次の 7 点の墓碑銘については、画像データベースと連携した学術論文を準備している。
墓石 1 (Headstone no. 1) ...ヒジュラ暦 1107 (西暦 1695/1696) 年、男性名ヤマシュ = ウグル・アルク。 墓石 2 (Headstone no. 2) ...ヒジュラ暦 1107 (西暦 1695/1696) 年、女性名イルメメト = クズ・エヌケイ。 墓石 3 (Headstone no. 3) ...ヒジュラ暦 1107 (西暦 1695/1696) 年、男性名ヤマシュ = ムハンマド = クル = ウグル・ヤマシュ = バイ。 墓石 4 (Headstone no. 4) ...ヒジュラ暦 1107 (西暦 1695/1696) 年、男性名ヤマシュ = バイ = ウグル・ヌールケイ = バトウル。 墓石 5 (Headstone no. 5) ...ヒジュラ暦 1107 (西暦 1695/1696) 年、男性名アマーシ = キルデエ = ウグル・サルトウク = バイ。 墓石 6 (Headstone no. 6) ...ヒジュラ暦 1107 (西暦 1695/1696) 年、女性名イセル = ゲブ = クズ・テュン = ビケ。 墓石 0 (Headstone no. 0) ...ヒジュラ暦 1112 (西暦 1700/1701) 年、男性名アルク = ウグル・エネ。
- (3) ヴォルガ・ウラル地域と中央アジアの比較研究
「研究発表等」欄を参照のこと。あわせて、学術論文を準備している。

* 文献一覧

- DeWeese, Devin 1994: *Islamization and Native Religion in the Golden Horde*, Pennsylvania.
Frank, Allen J. 1998: *Islamic Historiography and 'Bulghar' Identity among the Tatars and Bashkirs of Russia*, Leiden.
Kemper, Michael 1998: *Sufis und Gelehrte in Tatarien und Baschkirien, 1789-1889*, Berlin.
Shinmen, Yasushi; Sawada, Minoru; and Waite, Edmund (eds.) 2013: *Muslim Saints and Mausoleums in Central Asia and Xinjiang*, Paris.
Usmanov, V. M. 2014: *Istoricheskie pamiatniki 10. Musul' manskie epitafii Chishmy*, Ufa.
濱田正美 1999: 「聖者の墓を見つける話」、『国立民族学博物館研究報告別冊』20。
矢島洋一 2000: 「モンゴルのイスラーム改宗と Kubrawiyya」、『西南アジア研究』53。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計8件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 今松泰	4. 巻 -
2. 論文標題 タリーカ、聖者崇敬（トルコ）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 八木久美子（編）『イスラーム文化事典』（丸善出版）	6. 最初と最後の頁 594-595
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 磯貝真澄	4. 巻 叢書6
2. 論文標題 ロシア帝国末期ヴォルガ・ウラル地域のムスリム知識人とイスラーム宗務行政：ムスリム家族規範論からみえる結びつき	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 磯貝真澄・帯谷知可（編）『中央ユーラシアの女性・結婚・家庭：歴史から現在をみる』（アジア環太平洋叢書6、国際書院）	6. 最初と最後の頁 101-136
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 磯貝真澄	4. 巻 SCI 119, MEIS 29
2. 論文標題 ソ連初期のムスリム知識人による自己語り：1928年のハサンアター・ガベシーの自伝的回想を読む	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 野田仁（編）『近代中央ユーラシアにおける歴史叙述と過去の参照』（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）	6. 最初と最後の頁 225-243
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 ISOGAI Masumi, Marsil N. FARKHSHATOV, Tat'ana K. SURINA (eds.)	4. 巻 -
2. 論文標題 An Islamic Sacred Site and Epitaphs in the Southern Urals/ 南ウラルのイスラーム聖地と墓碑銘	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 The Digital Archive of Northeast Asian Studies/ 地域研究デジタルアーカイブ	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1. 著者名 矢島洋一	4. 巻 別冊1
2. 論文標題 『ハヤーティ-史』におけるジュナイド	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 渡部良子(編)『サファヴィー朝祖廟と廟不動産目録:財の運営から見るイスラーム聖者廟』(アジア・アフリカ言語文化研究 別冊1号)	6. 最初と最後の頁 167-180
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15026/117347	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名	4. 巻 19
2. 論文標題 : : (), 2019, 480).	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 :	6. 最初と最後の頁 996~1000
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.22363/2312-8674-2020-19-4-996-1000	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 磯貝真澄	4. 巻 91
2. 論文標題 書評と紹介 長縄宣博著『イスラームのロシア:帝国・宗教・公共圏, 1905~1917』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 イスラム世界	6. 最初と最後の頁 37-45
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 矢島洋一	4. 巻 62(1)
2. 論文標題 大塚修著『普遍史の変貌:ペルシア語文化圏における形成と展開』	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 オリエント	6. 最初と最後の頁 50-55
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 今松泰
2. 発表標題 オスマン朝における聖者信仰と聖者廟
3. 学会等名 近世ユーラシアの宗教アイデンティティ：グローバル多元主義と地域大国主義の相克
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 磯貝真澄
2. 発表標題 19世紀末ヴォルガ・ウラル地域の教区簿：婚姻・離婚の記録
3. 学会等名 第21回中央アジア古文書研究セミナー
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 磯貝真澄
2. 発表標題 ロシア帝国におけるイスラーム教育網と「ムスリム聖職者」層：イスラーム社会史からロシア社会史を議論する試み
3. 学会等名 上廣歴史資料学研究部門研究報告会（東北大学東北アジア研究センター）（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 矢島洋一
2. 発表標題 完全人間としてのムスリム君主
3. 学会等名 「イスラーム信頼学」A02班・B01班共催ワークショップ「イスラームの知の展開とコネクティビティ」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 今松泰
2. 発表標題 [コメント] 鈴木麻菜美『私たち / 彼らの宗教と音楽 : トルコの宗教的少数派 (マイノリティ) アレヴィーの文化継承の事例から』
3. 学会等名 スーフィズム・聖者信仰研究会2021年度第2回研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢島洋一
2. 発表標題 ジュナイドのトラブゾン・グルジスターン侵入
3. 学会等名 共同研究「イスラーム聖者廟の財産管理に関する史料学的研究 : イラン・サファヴィー朝祖廟を事例として」第9回研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 ISOGAI Masumi and Marsil N. FARKHSHATOV
2. 発表標題 Memoirs by Volga-Ural 'Ulama' in the Early Soviet Period
3. 学会等名 2nd International Academic Forum "Heritage," International Scientific Conference "Current Issues in the Study of History, Foreign Relations and Culture of Asian Countries" (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 磯貝真澄
2. 発表標題 ロシア帝国法のなかのムスリムの法 : 宗務行政からみた場合
3. 学会等名 2020年度第2回「法の支配と法多元主義」研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 磯貝真澄
2. 発表標題 中央ユーラシアのムスリム家族と女性：規範・言説研究の射程とロシア的文脈の検討
3. 学会等名 2020年度日本中央アジア学会年次大会公開パネルセッション「中央ユーラシアの家族とジェンダー：規範・言説・ネットワーク」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯貝真澄
2. 発表標題 ロシア帝政期ヴォルガ・ウラル地域のムスリムとイスラーム家族法
3. 学会等名 第1回「中央ユーラシアのムスリムと家族・規範」研究会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 矢島洋一
2. 発表標題 ヒヴァのテュルク語ファトワー文書
3. 学会等名 第18回中央アジア古文書研究セミナー
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 FARKHSHATOV, Marsil N. and ISOGAI, Masumi eds.	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Fuchu, Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa, Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 119
3. 書名 "My Autobiography" by Hasan `Ata' Gabashi in 1928: `Ulama' and Soviet Power	

〔産業財産権〕

〔その他〕

"An Islamic Sacred Site and Epitaphs in the Southern Urals"
<https://archives.cneas.tohoku.ac.jp/en/collection/musepitaph>
 「南ウラルのイスラーム聖地と墓碑銘」
<https://archives.cneas.tohoku.ac.jp/collection/musepitaph>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	矢島 洋一 (YAJIMA Yoichi) (60410990)	奈良女子大学・人文科学系・教授 (14602)	
研究分担者	磯貝 真澄 (ISOGAI Masumi) (90582502)	千葉大学・大学院人文科学研究院・准教授 (12501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
ロシア連邦	ロシア科学アカデミー・ウファ連邦研究センター歴史言語文学研究所		